

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1092600012		
法人名	株式会社 ユニマツリタイアメント・コミュニティ		
事業所名	草津温泉湯治館そよ風 しゃくなげ		
所在地	群馬県吾妻郡草津町大字草津464-702		
自己評価作成日	令和4年7月4日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人群馬社会福祉評価機構		
所在地	群馬県前橋市新前橋町13-12		
訪問調査日	令和4年7月22日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

草津と言えばなんと言っても温泉。自慢の温泉!!が入れて理念に基づいた安心とやすらぎのある家庭生活、優しくさりげなく手をさしのべられる心を持ち、月4回のイベントを最大のアピールポイントにしております。
 イベントの中でも毎年イベントに組み込んでいる【マス掴み大会】が大人気です。
 新型コロナウイルスの影響でなかなか自粛のイベントが多いですが楽しんでいただける様に努力をしています。 1人1人に合った生活が出来るようにしていきます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

温泉地に建つ2ユニットの事業所の周辺は、分譲・リゾートマンションが建つ都会的な環境と自然豊かな環境にある。玄関を入ると、訪問者の目につきやすい所に、事業所の基本方針や理念が掲示されている。法人には、米や野菜類を扱う部署があり、無農薬の米や野菜類を、収穫時期に利用者へ提供されている。その他、山菜の採れる時期には、利用者と近くの山へ山菜をとりに出かけて、収穫した山菜を食卓に出し、みなで美味しく食べる機会づくりが行われている。温泉地であり温泉が利用でき、利用者は広い浴室で温泉浴が楽しめている。また、真水浴槽も準備し、泉質が皮膚に合わずかぶれを起こす利用者にも対応している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1092600012		
法人名	株式会社 ユニマツリタイアメント・コミュニティ		
事業所名	草津温泉湯治館そよ風 こまくさ		
所在地	群馬県吾妻郡草津町大字草津464-702		
自己評価作成日	令和4年7月4日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人群馬社会福祉評価機構		
所在地	群馬県前橋市新前橋町13-12		
訪問調査日	令和4年7月22日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

草津と言えばなんと言っても温泉。自慢の温泉!!が入れて理念に基づいた安心とやすらぎのある家庭生活、優しくさりげなく手をさしのべられる心を持ち、月4回のイベントを最大のアピールポイントにしております。

イベントの中でも毎年イベントに組み込んでいる【マス掴み大会】が大人気です。

新型コロナウイルスの影響でなかなか自粛のイベントが多いですが楽しんでいただける様に努力をしています。 1人1人に合った生活が出来るようになっていきます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--	--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) ○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) ○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) ○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) ○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) ○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12) ○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う ○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

しゃくなげ

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	朝の申し送り時に理念をその日のリーダーが中心になって唱和し職員全員が共通認識し同じ方向を向きケアを行っています。	朝の申し送りで、気持ちも新たに、夜勤者・日勤者が理念を唱和し、夜勤者からの利用者の様子を引き継ぎ昼間のサービスにつなげて、理念の実践に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	今はコロナ拡大に伴い、町のお祭りなどが中止になり地域の方との交流が出来なくなりました。交流できるようになりましたら積極的に交流していこうと思います。グループホーム内のしゃくなげ、こまくさでは行き来がありレクも一緒に行っている事も多いです。	町主催のお祭りでは地域の子どもが来所し、利用者で交流していたが、祭りの中止に伴い訪問がなく3年目になる。デイサービスの利用者やホーム内の別のユニットの利用者との交流を図っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方々からの電話での問い合わせ、訪問で相談を必要に応じて対応を行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回開催していますがコロナ感染拡大に伴い開催できない状態であるので生活状況やイベント情報を手紙や電話で報告させていただいて意見をいただきサービス向上を図っています。	2ヶ月に1回の運営推進会議はコロナ禍のためやむなく中止しているが、2ヶ月毎に「事業所の状況報告」を管理者が地域の参加メンバー、家族に郵送し、意見を求めている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者や日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	定期的に管理者が空き情報、イベント情報について訪問、電話にて報告を行っています。	町役場担当課へは、居室状況などの報告は電話で行い、金魚すくいやマスつかみのイベントは訪問して伝えるなど、要件や内容によって伝え方を変えながら理解してもらう努力をしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束委員会を設置し会議を行っている。勉強会もおこなっている。全職員対象に勉強会後報告書を提出していただいている。	身体拘束に関する委員会を立ち上げ、会議や現状にそくした勉強会を行っている。また、日常の介護場面で利用者に対する職員の不適切な言動は注意し、指導している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	全職員対象に勉強会を行い報告書を書いていただき意識付けを行い職員同士が注意し合える環境づくりに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	今現在、日常生活自立支援事業を活用させていただき学ばせていただいている。活用できる機会があれば活用していきたいと、思います。月に一度のグループホームの会議で自立支援について話しが必要な利用者様をしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	今はコロナ感染拡大の影響で事前に見学が出来ませんが居室やフロア、浴槽、イベントなどの写真や動画を見て頂き理解していただいたうえで契約を行っています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	毎月ご家族に【グループホームだより】を送らせていただき日常が少しでも分かるように写真をいっぱい乗せさせていただきご家族に寄り添えるようなおたよりに仕上げています。ご家族受診対応時の時などに要望、相談など情報共有しています。	コロナ禍のため面会(15分間)の案内や、来所がない家族への呼びかけをしている。あわせて、誕生日の笑顔の利用者を載せた「グループホームだより」を、毎月、家族へ郵送して、状況を伝える努力をしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月、グループカンファレンス、管理者との面談、全体会議を行い職員から意見を出してもらい、業務内容、利用者様の問題点などを話し合い実践していけるようにしている。	毎月、職員は管理者との面談、カンファレンスでは利用者の情報と援助内容の見直し等が行われ、その他に全体会議が実施されている。面談や会議後は、職員から報告書が管理者へ提出されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回自己評価を行い自己アピールを出来る機会を作り研修の参加や資格取得を組み込み、月1回の管理者との面談をし働きやすくするように意見を聞き向上心上昇に努め働きやすい環境を整えている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	月に1回研修を実施している。新人職員には担当の指導者をつけ業務を行いながら技術を身につける体制をとっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	社内では毎月1回協議会を行い群馬県のセンター、県外のセンター以外の人とも交流し情報共有を行って各センターの向上を図っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	安心して過ごしていただく為に関わり合いを密接にし、その都度、困りごと、心配事などを傾聴し解決できるように努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族とは初回の面談を通してご家族様の困っている事、不安な事、要望を聞き解決に向けての提案をするなど関係作りに努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	草津はグループホーム、デイサービス、ショートステイと多様なサービスの選択肢がある為、ご本人、ご家族様にとって最適なサービスを提示していく。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様に対し、共に暮らすもの同士、人生の先輩である事を念頭に置き関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族にはご本人の生活状況や身体状況を手紙、グループホームだよりなどで随時報告、共有している。今現在、面会は2名までで15分と時間を決めての面会になってます、面会時に情報共有できるように行っていきます。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	今は面会時間が15分と決められている為なかなか面会に来てくれる人がいませんが手紙、電話で関係が途切れないように努めています。	以前は、定期的に絵手紙の届く利用者や、自らが電話をかけていた利用者も、今は、事業所の電話で職員が支援し通話をしている。また、天気のいい日には、馴染みのある白根山方面へドライブをしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士の会話には傾聴を行い楽しいお話しが出来るように職員が間を取り持つ事をしたりしながら利用者様同士の関係を支え合えるような支援に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後もご家族から相談などがあつた際には話しを伺って相談、支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者様1人1人の思い、口で表せない方に対してはご家族に昔の事を聞いて趣味など特技などを把握し希望にそうように意向を尊重し把握に努めています。	利用者の表情や動作から、心(気持ち)を読みとり支援している。また、稲の生育が気になり田んぼへ行きたいと訴える利用者と事業所周辺を散歩するなど、気持ちにそった支援に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者様、ご家族に生活歴や暮らし方を聞き馴染みの物などを持ってきていただき把握出来るように努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者様、1人1人の過ごし方、心身状態、有する力などを利用者様、ご家族に聞き取りを行い把握に努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的に介護計画書、モニタリングを作成、実施している。本社にも提出して第三者の目で確認してもらっている。利用者様、ご家族、日々接している職員と話し合いをし意見などを取り入れ介護計画書を作成しています。	介護支援専門員によるケアプランを参考にすることや、職員からの情報を基に話し合い介護計画を立案している。提供した援助内容の見直しは、緊急性のない場合は会議(カンファレンス)の中で毎月実施している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	365日24時間何をしているか記録し朝礼、夕礼、その都度全職員が把握し共有できるようにし実践し、介護計画の見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者様、1人1人に合ったニーズを考えその時々に対応できるサービスをし支援柔軟色々な考えやり方に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	今はコロナ感染の影響に伴い地域資源(ボランティアの方)を呼ぶ事が出来ない為来てもらえるようになったら来ていただき安全で豊かな暮らしを楽しんでいただける様努めています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者様、ご家族の希望により町内のかかりつけ医であれば、付き添い介助を行っている。	入居時に、本人・家族にかかりつけ医の受診希望の確認や、事業所の現状の医療体制について説明している。道を挟んで協力病院があり、医師により一般診療が受けられている。緊急時や夜間の場合は、救急車で病院へ搬送している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	常勤准看護師1名、非常勤看護師1名を配置し介護職員が日々の体調を観察し連携をとり受診や看護を受けられるようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院された時はソーシャルワーカー、看護師と身体面、メンタル面の確認等の情報交換を行い、早期退院できるように努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に終末期のケアについて説明を行っている。その都度、本人、ご家族と話し合いながら私たちが出来る事を医療機関との連携を図り、支援している。	入居時に、本人・家族に向け、重度化した場合の意向を伺うとともに、事業所のできることを説明している。歩いて数分先の協力病院の診療が受けられるが、夜間や救急な場合は他の医療機関と連携・搬送している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	勉強会を行い応急処置、AEDの使い方、心肺蘇生術を学び、職員全員で学ぶ機会を設け緊急対応が出来るように努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災や地震、水害、噴火災害を想定した避難訓練を年2回実施している。訓練時には日中、夜間を想定した訓練を行い消防にアドバイスをいただいている。避難場所の確認を行い災害に備えている。消化訓練も行っている。	避難訓練は、火災・地震等の他、噴火災害を想定し実施している。全職員の参加と事業所独自のマップを作成し、地域の交番や消防署職員との連携を図り協力体制を築いている。備蓄は、水・缶詰等を用意している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	研修や勉強会で人格を尊重し誇り、プライバシーを損ねない言葉かけ対応などを勉強し報告書も提出し実行している。	「尊厳、人格の尊重」は、具体例を挙げ指導しており、普段から目上の人に対する言葉づかい等を注意して、敬意を払うようにしている。また、トイレへの声掛けは、利用者に向けた声掛けで誘導しプライバシーを損ねない対応をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人にの思いや希望を表現できるように職員が常日頃からコミュニケーションをとり話しやすい環境作りを行っている。自己希望が言えない方はご家族と相談させていただいている。自己決定ができるように色々な事を選択できる機会を設けています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々のそれぞれのペースの生活をどのように過ごしたいか傾聴を行いなるべく希望にそって支援を行って支援をしています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	おしゃれや、身だしなみは特に女性は月に1回の理美容で本人希望があればパーマ、髪染めなどを行い時にはマニキュアなども行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	高齢化と認知症状の低下で出来ない方が多くなってきているが、出来る方と一緒に食事を作ったり片付けなどを行っています。毎月の昼食作りは利用者様に食べたい物を聞きリクエスト昼食をしお食事を楽しんでいただいています。	コロナ禍のため、テーブルの間隔や1テーブルの人数を減らして、感染予防している。食事は本部から送信される献立表を基に、調理している。月に4回程の昼食は、利用者からのリクエストに応じた食事が提供され、利用者の楽しみとなっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量の記録を毎日行い現病気に合わせて食事提供を行っています。一人一人の状態や習慣に応じた支援を行っている。その時の体調に合わせた食事形態を提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自力で出来る方は自力でしていただき支援が必要な方は介助にて口腔ケアを行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	自立支援を行っている為2名の方が布パンツを使用しなるべくリハビリパンツをはかないように声掛けを行いトイレに行っていたいています。失禁もありますがあんまりひどい時は布パンツにパットを使用する時もあります。	排泄記録や、利用者の様子から判断して、トイレ誘導・トイレでの排泄を行っている。失敗してしまう状況に応じて、早めの声掛けなど早めのトイレ誘導・支援をしたり、布パンツにパットを使ったりなどして防ぎ、自尊心を傷つけないようにしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	受診時に主治医に相談し便秘薬の処方をして頂いている。毎朝の朝礼で全員の排便確認を行い必要に応じて排便や坐薬を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	現状では午前中にデイサービスが入浴を行っている為、グループホームは午後入浴を行っています。週2回の入浴を行っていませんがなかなかそれ以上入浴回数が増やせていない。便失禁で酷い時などは+で入浴を実施することがある。	温泉地であり、温泉が利用できる。広々とした浴室には、手すりを取り付け安全面に考慮し、大きい浴槽と家庭用の浴槽があり、自立にむけた入浴支援をしている。利用者の皮膚の状態に応じ、真水入浴もできる。利用者は、職員の見守りと介助でゆったり入浴ができるようにしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝時間は利用者様の希望に任せています。夜間徘徊をずっとしている人もいますが、主治医に相談をし睡眠導入剤などを処方していただき休んでもらうように努めています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	各個人ファイルに薬剤情報がありいつでも見られるようにしています。薬の変更があった時には職員全員が見るタレントに書いたり朝礼の時に報告し情報共有しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	各個人のアセスメント時の情報を元に、その方の生活歴や趣味を話題にあげたり気分転換になる事(1人1人違う楽しみ)を支援行っています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナの関係で外出の制限がありますが、お散歩近場のドライブを考え出かけています。	ハッ場ダムや白根方面へ、ドライブに出かける日もある。また、週1回(木曜日)町内の店舗からの出張販売があり、感染予防をしながら、利用者自らで選べる買物支援が行われている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金はそよ風金庫で預かっています。金庫を開けられる人はセンター長だけになっています。外出ドライブなど行った時は個人で使えるお金を持っていき買い物を行っています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	施設の電話を使い電話を行っています。今は手紙を書ける人がいない為手紙でのやり取りは行っていません。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	清掃担当がいるため、毎日清掃を行っています。フロアについては夜勤者が毎日清掃を行っています。	廊下や食堂・居間は広く、開放的で明るい。昼食時は、低い音でBGMが流れている。食堂のテーブルは感染対策のため、パーティションで4人掛けに区切られている。レクリエーションに金魚すくいなどをして、たのしみながら季節感を取り入れている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアなどの共有スペース、ソファなどは好きな時に使えるようになっています。思い思いに過ごされています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族にも相談し、本人のお気に入りの物などを持ってきていただいでいて過ごしやすいように工夫を行っています。	居室の清掃や片づけ等は、2名の担当職員と利用者によって整えられている。持ち込みは自由であり、こたつ・テレビを置き利用者の過ごしやすい環境づくりに努めている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	共用部、トイレ居室などの表記を大きく、見やすく分かりやすく工夫し自立した生活、安全に生活が送れるように工夫している。		

自己評価および外部評価結果

こまくさ

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	朝の申し送り時に理念をその日のリーダーが中心になって唱和し職員全員が共通認識し同じ方向を向きケアを行っています。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	今はコロナ拡大に伴い、町のお祭りなどが中止になり地域の方との交流が出来なくなってしまいました。交流できるようになりましたら積極的に交流していこうと思います。グループホーム内のしゃくなげ、こまくさでは行き来がありレクも一緒に行っている事も多いです。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方々からの電話での問い合わせ、訪問で相談を必要に応じて対応を行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回開催していますがコロナ感染拡大に伴い開催できない状態であるので生活状況やイベント情報を手紙や電話で報告させていただいて意見をいただきサービス向上を図っています。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	定期的に管理者が空き情報、イベント情報について訪問、電話にて報告を行っています。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束委員会を設置し会議を行っている。勉強会もおこなっている。全職員対象で勉強会後報告書を提出していただいている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	全職員対象に勉強会を行い報告書を書いていただき意識付けを行い職員同士が注意し合える環境づくりに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	今現在、日常生活自立支援事業を活用させていただき学ばせていただいている。活用できる機会があれば活用していきたいと、思います。月に一度のグループホームの会議で自立支援について話しが必要な利用者様をしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	今はコロナ感染拡大の影響で事前に見学が出来ませんが居室やフロア、浴槽、イベントなどの写真や動画を見て頂き理解していただいたうえで契約を行っています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	毎月ご家族に【グループホームだより】を送らせていただき日常が少しでも分かるように写真をいっぱい乗せさせていただきご家族に寄り添えるようなおたよりに仕上げています。ご家族受診対応時の時などに要望、相談など情報共有しています。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月、グループカンファレンス、管理者との面談、全体会議を行い職員から意見を出してもらい、業務内容、利用者様の問題点などを話し合い実践していけるようにしている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回自己評価を行い自己アピールを出来る機会を作り研修の参加や資格取得を組み込み、月1回の管理者との面談をし働きやすくするように意見を聞き向上心上昇に努め働きやすい環境を整えている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	月に1回研修を実施している。新人職員には担当の指導者をつけ業務を行いながら技術を身につける体制をとっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	社内では毎月1回協議会を行い群馬県のセンター、県外のセンター以外の人とも交流し情報共有を行って各センターの向上を図っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	安心して過ごしていただく為に関わり合いを密接にし、その都度、困りごと、心配事などを傾聴し解決できるように努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族とは初回の面談を通してご家族様の困っている事、不安な事、要望を聞き解決に向けての提案をするなど関係作りに努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	草津はグループホーム、デイサービス、ショートステイと多様なサービスの選択肢がある為、ご本人、ご家族様にとって最適なサービスを提示していく。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様に対し、共に暮らすもの同士、人生の先輩である事を念頭に置き関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族にはご本人の生活状況や身体状況を手紙、グループホームだよりなどで随時報告、共有している。今現在、面会は2名までで15分と時間を決めての面会になってます、面会時に情報共有できるように行っていきます。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	今は面会時間が15分と決められている為なかなか面会に来てくれる人がいませんが手紙、電話で関係が途切れないように努めています。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士の会話には傾聴を行い楽しいお話しが出来るように職員が間を取り持つ事をしたりしながら利用者様同士の関係を支え合えるような支援に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後もご家族から相談などがあつた際には話しを伺って相談、支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者様1人1人の思い、口で表せない方に対してはご家族に昔の事を聞いて趣味など特技などを把握し希望にそうように意向を尊重し把握に努めています。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者様、ご家族に生活歴や暮らし方を聞き馴染みの物などを持ってきていただき把握出来るように努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者様、1人1人の過ごし方、心身状態、有する力などを利用者様、ご家族に聞き取りを行い把握に努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的に介護計画書、モニタリングを作成、実施している。本社にも提出して第三者の目で確認してもらっている。利用者様、ご家族、日々接している職員と話し合いをし意見などを取り入れ介護計画書を作成しています。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	365日24時間何をしているか記録し朝礼、夕礼、その都度全職員が把握し共有できるようにし実践し、介護計画の見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者様、1人1人に合ったニーズを考えその時々に対応できるサービスをし支援柔軟色々な考えやり方に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	今はコロナ感染の影響に伴い地域資源(ボランティアの方)を呼ぶ事が出来ない為来てもらえるようになったら来ていただき安全で豊かな暮らしを楽しんでいただける様努めています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者様、ご家族の希望により町内のかかりつけ医であれば、付き添い介助を行っている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	常勤准看護師1名、非常勤看護師1名を配置し介護職員が日々の体調を観察し連携をとり受診や看護を受けられるようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院された時はソーシャルワーカー、看護師と身体面、メンタル面の確認等の情報交換を行い、早期退院できるように努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に終末期のケアについて説明を行っている。その都度、本人、ご家族と話し合いながら私たちが出来る事を医療機関との連携を図り、支援している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	勉強会を行い応急処置、AEDの使い方、心肺蘇生術を学び、職員全員で学ぶ機会を設け緊急対応が出来るように努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災や地震、水害、噴火災害を想定した避難訓練を年2回実施している。訓練時には日中、夜間を想定した訓練を行い消防にアドバイスをいただいている。避難場所の確認を行い災害に備えている。消化訓練も行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	研修や勉強会で人格を尊重し誇り、プライバシーを損ねない言葉かけ対応などを勉強し報告書も提出し実行している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人にの思いや希望を表現できるように職員が常日頃からコミュニケーションをとり話しやすい環境作りを行っている。自己希望が言えない方はご家族と相談させていただいている。自己決定ができるように色々な事を選択できる機会を設けています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々のそれぞれのペースの生活をどのように過ごしたいか傾聴を行いなるべく希望にそって支援を行って支援をしています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	おしゃれや、身だしなみは特に女性は月に1回の理美容で本人希望があればパーマ、髪染めなどを行い時にはマニキュアなども行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	高齢化と認知症状の低下で出来ない方が多くなってきているが、出来る方と一緒に食事を作ったり片付けなどを行っています。毎月の昼食作りは利用者様に食べたい物を聞きリクエスト昼食をしお食事を楽しんでいただいています。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量の記録を毎日行い現病気に合わせて食事提供を行っています。一人一人の状態や習慣に応じた支援を行っている。その時の体調に合わせた食事形態を提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自力で出来る方は自力でしていただき支援が必要な方は介助にて口腔ケアを行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	自立支援を行っている為3名の方が布パンツを使用しなるべくリハビリパンツをはかないように声掛けを行いトイレに行っていると思います。失禁もありますがあんまりひどい時は布パンツにパットを使用する時もあります。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	受診時に主治医に相談し便秘薬の処方をして頂いている。毎朝の朝礼で全員の排便確認を行い必要に応じて排便や坐薬を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	現状では午前中にデイサービスが入浴を行っている為、グループホームは午後入浴を行っています。週2回の入浴を行っていますがなかなかそれ以上入浴回数が増やせていない。便失禁で酷い時などは+で入浴を実施することがある。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝時間は利用者様の希望に任せています。夜間徘徊をずっとしている人もいますが、主治医に相談をし睡眠導入剤などを処方していただき休んでもらうように努めています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	各個人ファイルに薬剤情報がありいつでも見られるようにしています。薬の変更があった時には職員全員が見るタレントノートに書いたり朝礼の時に報告し情報共有しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	各個人のアセスメント時の情報を元に、その方の生活歴や趣味を話題にあげたり気分転換になる事(1人1人違う楽しみ)を支援を行っています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナの関係で外出の制限がありますが、お散歩近場のドライブを考え出かけています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金はそよ風金庫で預かっています。金庫を開けられる人はセンター長だけになっています。外出ドライブなど行った時は個人で使えるお金を持っていき買い物を行っています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	施設の電話を使い電話を行っています。今は手紙を書ける人がいない為手紙でのやり取りは行っていません。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	清掃担当がいるため、毎日清掃を行っています。フロアについては夜勤者が毎日清掃を行っています。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアなどの共有スペース、ソファなどは好きな時に使えるようになっています。思い思いに過ごされています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族にも相談し、本人のお気に入りの物などを持ってきていただいているように工夫を行っています。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	共用部、トイレ居室などの表記を大きく、見やすく分かりやすく工夫し自立した生活、安全に生活が送れるように工夫している。		